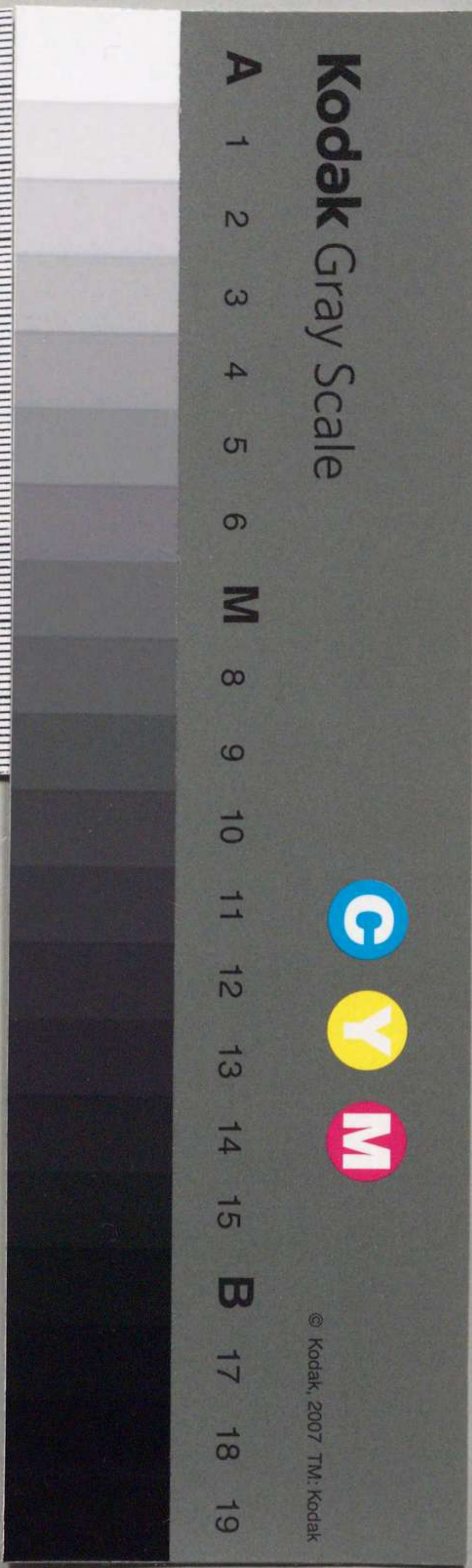
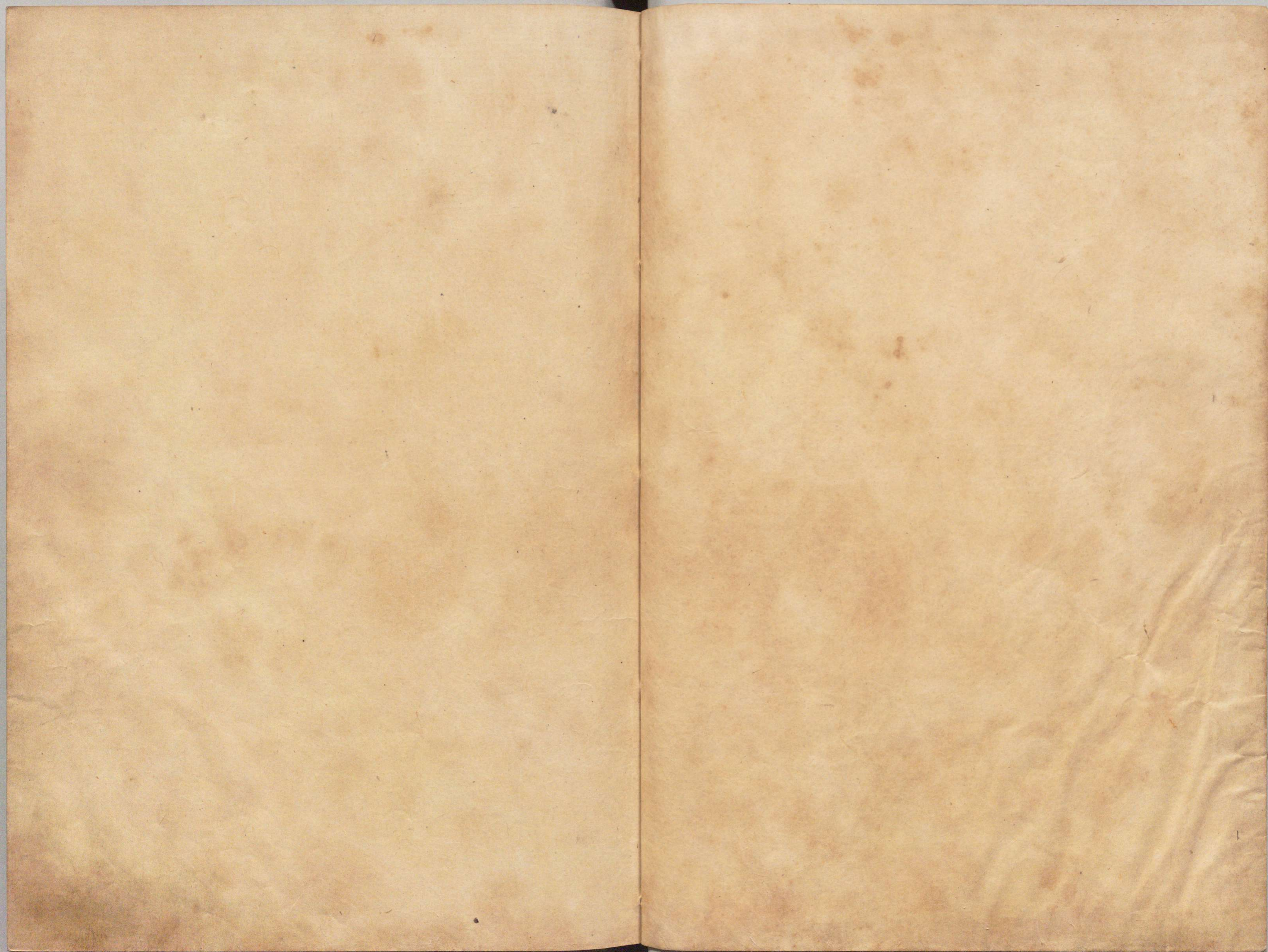


寛永諸家譜

清和源氏西四冊之内  
義家流之内義隆流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 ( 22)		
函號	博	76	1





森

押田

寛永諸家系圖傳

清和源氏

丙四

義家流

義隆流

森

淺草文庫

八幡太郎義家やしまさの六男源義隆みなもとよしか初はつしめく

森もりの六郎むさしと号なづかするのこ子こ頼隆たよりと

森川もりがわ冠者かむらと号なづかする治承四年九月

千葉ちのへ女め常胤つねのむすこが取とりてけり

頼朝よりともふゆの頼隆よりたけが二男伊豆守頼定いづのさだまさ  
と森次郎もりじろと号す頼定が嫡男義泰よしかず  
を森左郎もりさだと号す二男定氏さだうぢと森次  
郎もりじろと云ふ三男頼泰よりやすと森之助もりすけと号す  
且男頼約よりやくと妻み郎むすめと号す其子孫  
代々あひついでついでと森と号す

果ついで

越後守 生國なかつくに茂濃 日金山ひきみやま蓮臺れんたい居河いかわ

天正年中てんしやうちゆう日金山ひきみやまにて病死びやうび年八十餘よそ

可成よきなり

三た湯さんたゆの生國なかつくに日金山ひきみやま居河いかわ  
織田信長おだのぶなが一ひと所ところより  
弘治元年こうじげん四月しがつ信長のぶながと川かわで織田おだ  
又郎またらうとせむる時とき可成よきなりとて彦五郎ひこごらう  
首くびとす

日二年にっねん五月ごがつ信長のぶなが林美作はやしのみささきとすうつ時とき

可成軍功あり

永禄元年信長尾張浮那にて合戦の

ころに可成河ひ志こぶ

日三年信長今川義元と合戦の時可成

志こぶひゆ

日十一年信長一志こぶひ志の善作

の城とせしり時水兼禎が志を

屋よりそのら可成柴田終理亮蜂屋

岩庫坂坂井右近と岩成主税以とせめ

て青龍寺の城と屋より主税以降参り

元亀元年五月信長河列とせしり時

可成志賀守山山崎の両城とせしり

同年九月十六日約倉義京淺井敏元と

河ひもひ三万余騎の軍勢と引か

穀山坂本の急よとせきつらと此可成

守取の城中より出くふせきたか

十九日約倉淺井が岩坂本と屋より

可成いふたひ河力よ討死す

第百十八

此年亦いよて度この戦功ありしより  
つげくあるよしといふありし也

可改

對馬守 生國同前

とどめ信をりし之く後子考者  
志るふに列坂をふくめされく莫繼  
の役とありし時一年廿四歳

高麗陣のとき考者の命と受けく

可改朝鮮へより陣の術と見らる

慶長又年石田三成謀叛の時可改同

東へありし

東照大権現へ志るべし

後可改後五位下より叙し對馬守ふ

伊と

日十七年善也忠政ありしより

大権現より可改と忠政より始り善也

の國たよりあつむく  
六十四歳ひがしして病死  
可成子孫未成うまひのたんり見こり

女子なご

長田ながた又た勝門かつもん書

女子

岡小十郎おかせうじろう右勝門書

某たが

傳たが書

元龜元年四月廿五日信長ねがしより志  
越前えちぜん約念あきとせしりて此こゝ乃山  
みく討死うちどこきりし十九

長一ながいち

勝就かつしゆ坂下武就さかしたけしゆと号なづし

濃列金山一居住

十六年一信長一此一戦場

ひふ

天正二年七月信長伊勢の松尾の城とを

ひの時長一なるび一園小十郎大勝の曰

あつひゆ

日十年二月長一織田信忠一なるび

武田勝頼とせしひの時信濃伊奈とい

つる小笠原掃部松尾の城一いつて

信忠一属せんころりハ信忠の

使と一ころり一園平八あ人とつる

リ掃部とつる特一伴お早名飯

田の城一いつて謀叛一城とて

出と一あきとあいつけく敵の首三首

余といつる信忠飯沼一いつる特

と一先づけしてころりなるの城と

せし

四月信長甲列といつる武田の一族と



わら河をせしむ織田源ら即并  
と一國平八と野の國よりむふ小幡  
海軍も人質と出しく降参  
信長信濃の更級高井水内埴科の  
郡とと一は終つて一海津の城と  
らへ居んとする付近邊の一揆を  
余人せりきつりて一二千人を  
引く敵のくび二千余と討つ信忠  
一献を信忠感状とたす

六月廿一信濃ありて信長明智  
めふらきつりてと海せん  
とをすらるる日國防を子  
と人あらふしてと一取あり先  
よりて春日等と一申るはと  
海河よりおひく人質と一を  
しと一志つては國人共と  
あるふべし又海津の世と  
とくきつりてと一と

いひく信者不<sup>ふ</sup>通<sup>つう</sup>所<sup>しよ</sup>ふ<sup>ふ</sup>し<sup>し</sup>てなん  
ぢ<sup>ぢ</sup>我<sup>が</sup>とあ<sup>あ</sup>か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>ひ<sup>ひ</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
人<sup>に</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>つ<sup>つ</sup>を<sup>を</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>なん<sup>ん</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>  
我<sup>が</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>バ<sup>バ</sup>我<sup>が</sup>ま<sup>ま</sup>こ<sup>こ</sup>た<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>と<sup>と</sup>付<sup>つ</sup>く  
信<sup>しん</sup>者<sup>しや</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>た<sup>た</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ふ<sup>ふ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>  
日<sup>に</sup>が<sup>が</sup>首<sup>しゆ</sup>途<sup>と</sup>途<sup>と</sup>日<sup>に</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>り<sup>り</sup>な<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>我<sup>が</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>  
た<sup>た</sup>ふ<sup>ふ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>法<sup>ほふ</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>人<sup>にん</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>  
と<sup>と</sup>川<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>國<sup>こく</sup>中<sup>ちゆう</sup>の<sup>の</sup>一<sup>いつ</sup>揆<sup>けい</sup>修<sup>しゆ</sup>次<sup>じ</sup>の<sup>の</sup>つ  
ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>一

陸<sup>りく</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>づ<sup>づ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>その  
つ<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>馬<sup>ば</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>  
ら<sup>ら</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>一<sup>いつ</sup>大<sup>たい</sup>河<sup>が</sup>と<sup>と</sup>こ<sup>こ</sup>て<sup>て</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>一<sup>いつ</sup>揆<sup>けい</sup>接<sup>せつ</sup>の  
馬<sup>ば</sup>場<sup>ぢやう</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>り<sup>り</sup>引<sup>ひ</sup>退<sup>たい</sup>く<sup>く</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>悦<sup>えつ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>日<sup>に</sup>固<sup>こ</sup>防<sup>ぼう</sup>守<sup>しゆ</sup>り<sup>り</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
ぢ<sup>ぢ</sup>の<sup>の</sup>人<sup>にん</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>  
の<sup>の</sup>人<sup>にん</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>

日<sup>に</sup>十<sup>じゅう</sup>二<sup>に</sup>年<sup>ねん</sup>四<sup>し</sup>月<sup>げつ</sup>九<sup>く</sup>日<sup>にち</sup>尾<sup>び</sup>列<sup>れつ</sup>長<sup>ちやう</sup>久<sup>く</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>合<sup>あ</sup>戦<sup>せん</sup>の  
ぢ<sup>ぢ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>一<sup>いつ</sup>池<sup>い</sup>田<sup>でん</sup>勝<sup>しやう</sup>入<sup>にゅう</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>日<sup>にち</sup>下<sup>げ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>討<sup>うち</sup>死<sup>し</sup>時<sup>とき</sup>

女七采

此外平生度この軍功ちとあは

あつちるるす

女子

若狭少将勝俊書

菓

蘭丸

幼少より信長の遊習ありてつね小

りの整むととるれど玄徳川に

應じてよき生れつこの人なり

天正七年四月廿日信長将列し河内

塩川伯耆守國のまつりごとく民

と治りよきこしなれど蘭丸と使

者として銀子千両塩川に給

京都和泉の場名とゆつ家の本土

一夜河内よりありて信長へ湯と





せど廣間廊下のるり伺惟と

大権現あらりしりくも二の心所

感阿也忠政とりく河原美阿さり

らず其家人もりかふれ秘んる

の心もた阿り去後信濃の川中鴻

と忠政しり終り

去又五年石田治平が捕三成謀叛の

時忠政と引いんとして使志とけり

まひくとくも許家せど

台徳院殿へ去るびひくそつり信濃へ

教向し去回とせむ

日八年

大権現しり每此國と忠政しり終り

日十九年冬大坂陣の時信と取く

忠政天満はとせし翌三年大坂再乱

のしき忠政又しせくとたつて仙波

口し陣しり敵の首二百五つとせむ

寛永三年

台徳院殿以上洛の時忠政は統率したる所  
中将より任じ

日十一年

將軍が政以入洛の時忠政先立ちて京  
約たしくしむる俄に病歿す年六十五  
あはれより先よ

大権現を深國後の以賜指と忠政より  
孫よりあら青木肩衝の以茶入と  
為領し又銀けりりの鉄炮二挺と孫より

台徳院殿より北洞軍保と為領と之後

新坂五の以賜指と為領す

台徳院殿豊洲の時以遠物わしと銀子

五万両為領と

此外以物と為領より母玉の時以磨り  
三并より金銀器服の類毎度以載と

重政

大膳亮 廿六歳

女子

関氏初少捕書内記母なり

女子

池田梅中書

女子

松平左衛門督書

と後高松在東京亮書

女子

女子

森田進書

たを忠政いこなり

菓

虎松丸

江戸少く丸菓にて病死



忠廣 ちひろ

右左衛門 うでざゑもん 後五位下 ごごいげ 叙 ぎよ 一 いち 等 とう 叙 ぎよ

寛永三年 かんえいさん 叙 ぎよ

日十年 ひととせ 江戸 えど 病死 やまひに 年二十

あま あま 一 いち 等 とう 叙 ぎよ

右德院殿 うでとくゐん 一 いち 等 とう 叙 ぎよ の の 書 かき 光 みつ の の 信 のぶ 懐 なつか 物 もの

と と 津 つ 領 りやう 一 いち

女子

女 め 多 おほ 能 の 也 なり 一 いち 等 とう 叙 ぎよ

長継 ながつぐ

内記 ないき 生國 なまくに 義也 ぎや

實 まこと 國 くに 氏 うぢ 於 お 少 すくなく 博 ひろ 成 なり 次 つぎ 子 こ 一 いち 等 とう 叙 ぎよ 也 なり 也 なり 也 なり

一 いち 等 とう 叙 ぎよ 也 なり 也 なり 也 なり

寛永十一年 かんえいじゅういちねん 忠 ちゆう 政 せい 遠 えん 一 いち 等 とう 叙 ぎよ 也 なり 也 なり 也 なり

將軍しんぐん 凌りやうと礼らいありたぐまつりまつりににととららん

家督けとくととららししのの國くにとと領りやうと

日十二年にっにじふにねん 日におおりり叙ぎよと

日十七年にっしちねん 十二月じふにがつ 結むす後ごにに何なにと

凌りやう叙ぎよ孫まご孫まご

● 集

圓十郎右衛門尉

生國尾張一交

信長小姓

法名洋蓮

圓氏（おの）者原（の）の姓（な）よりあつり大織冠八代

儀（のり）有（り）右（の）秀（の）彌（の）十一代（の）後（の）平（の）と圓（の）次（の）郎（の）と

号（の）と後（の）平（の）の才（の）政（の）直（の）と圓（の）五（の）郎（の）と号（の）と

とを姪（の）政（の）泰（の）と圓（の）左（の）衛（の）門（の）尉（の）と号（の）とと子（の）

孫（の）代（の）におれいづ圓（の）氏（の）とと

某

関小十郎大湯の尉

生國同好

信長より志すべし子の橋三郎の陣  
て軍功あり

近江小倉合戦の時信長と渡井とらひ

うらうらと立ちあひじふ渡井が

名もよかりんとす小十郎大湯の橋と

まひり事す所より徳幸と下知

一鉄炮とてまじこころまじ

よやくして人の目とおどろくす

天正十年信長より志すべし甲斐國

よりあひじくうのり森氏宛守り

属す

小十郎大湯と尾張須賀の城と渡井尉

八と中より守夜に境目と編んで

あいたくひ勝事とゆくり

日十二年四月九日と久々合戦の時

小十郎左衛門先づけしして河ひたふ事  
初武藏守討死ととまほくいりて命と  
かし中ずいそふたけりて終に討死と  
年三十三

成次 なりつぐ

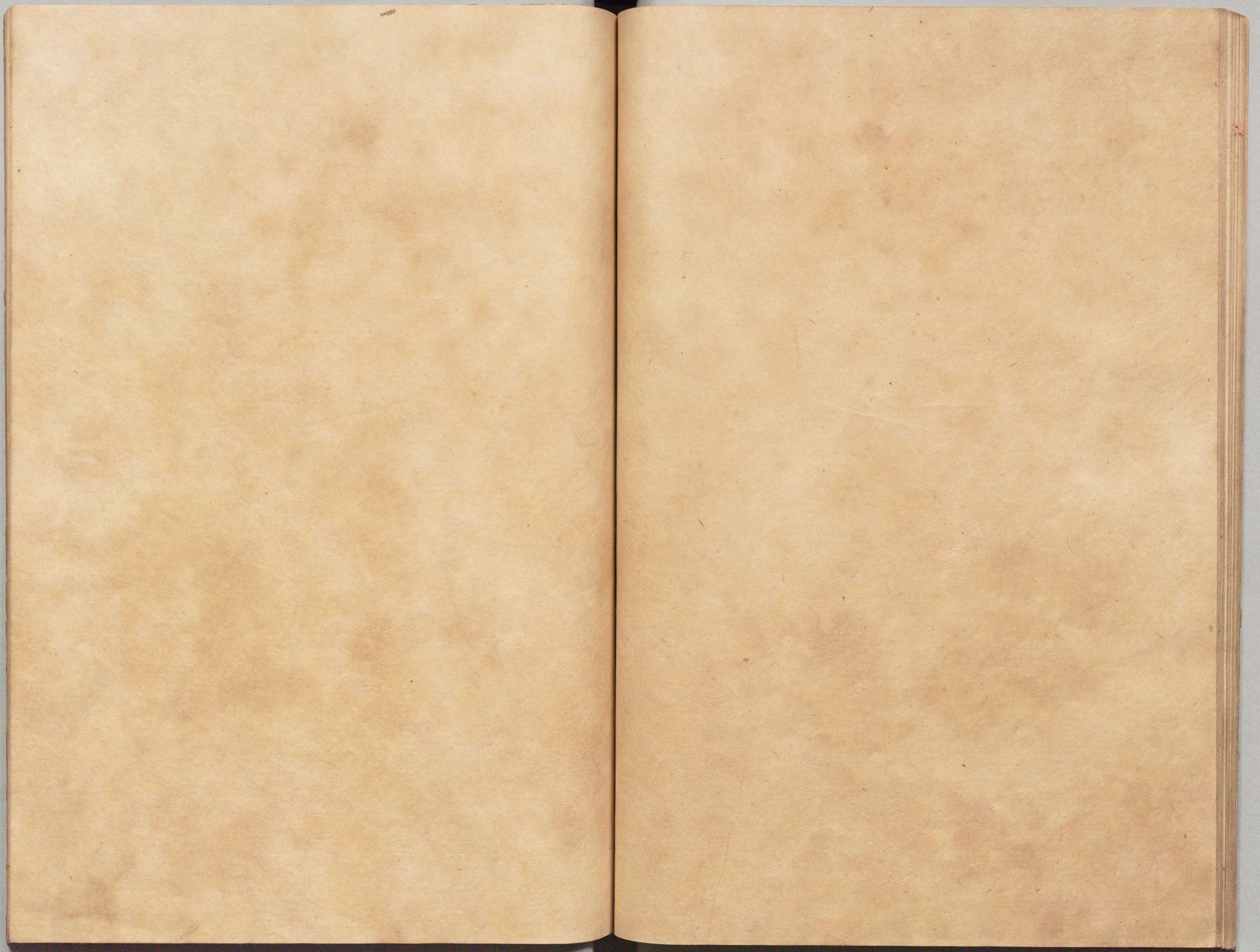
関氏初少捕

長継 ながつぐ

森内氏 もりうち

長政 ながまさ

関氏初少捕 せうぶ



森もり

可政かせい

對馬守つしまのしゅ

生國濃列金山なまくにのりけつきんざん

事ことハ森内もりうち北きた七しち繼ついで橋はし中なかニ洋やうたり

重政しげせい

河内守かわちのしゅ

伊豆守いづのしゅ

後のちニ對たいすることと改かへ

生國日前

伏見うしゑ一ひとおののくく神かみ

東照大権現とうしょうだいこんげんははけけくくそそままのの時とき年ねん  
十じゅう年ねん

寛文十一年かんぶんじゅういちねん江戸えど一ひとおののくく

台徳院たいとくゐん殿とのととあありりたたくくままののりり

同十四年どうじゅうよねねん後五位下ごごいげ一ひと叙しよをを

寛永八年かんえいはちねん御ご使し者しやのの役やくととししとと

同七年どうしちねん

將軍家しやうぐんけととししとと

同十年どうじゅうねん江戸えど一ひとおののくく病びやう死し年ねん五十三ごじゅうさん

法名ほふな宗瑞そうずい

可澄かそう

大権現だいこんげん 生國日前きこくひる

十一じゅういち年ねん一ひとおののくく

大権現だいこんげんははけけくくそそままのの時とき年ねん

寛文五年かんぶんごねん石田治部いしだおふのぢよぶのの補ほ之の威ゐ謀ぼう反はんのの



少子ちうし父可政ちかまさと相あもりり関東かんとう  
おもしろき

大権現おほごんげん小湯こゆたぐたぐ中ちゆう川がわ不ふ

同八年三月二十五日ごごにのひ没な位い下げ叙ぎよと

寛永十五年かんえいじゅうごねん江戸えど小おろくこおろく病死びやうし年

又十四

可久ちかひさ

たき清きよ 生國なまくに駿列しゆんれつ府中ふちゆう

寛永四年十二かんえいしよんねんじふに業ごうああててははぐぐ

台徳院たいとくゐん殿でん一いち比ひ之のそそ中ちゆう川がわ不ふ

同九年

將軍家しやうぐんけととあありりたたぐぐ中ちゆう川がわ不ふ

重ちゆう継けい

次郎じらう之の清きよ 生國なまくに掎ぎ列れつ大坂おおいさか

寛文十六年

台徳院たいとくゐん殿でんととあありりたたぐぐ中ちゆう川がわ不ふ十二年じふにねん

元和二年十一月廿八日

寛永十八年

將軍家へ此の如く申上り候旨に付

と申上

この如く申上  
家紋舞鶴

集

辺江守

生國月前

● 集

カミミのミ  
辺江守

シキウキヨ  
生國下総

押田

ウタリ  
義隆の末流

胤定 たねさだ

下野守 生國月前 しもくにきりげん

千葉女よけ之一方の役とけしし千葉 ちばのむすめ

女死去の後小糸氏政よりけし いづま

法石常蓮 はふしつじょうれん

吉正 よしかさ

友太湯門尉 生國月前 ともたゆもんゑい

先祖より千葉氏よりけし一方の軍中 せんぞ

とけしよりけし八日市場をびよ大洞契 やまろちび

五城と守り千葉氏滅亡の後又とを ごじょう

小糸氏政よりけし其後 こいすだて

大権現園東河進夜の時きりおふれされ おんごん

より

名徳院殿

將軍家よりけしよりけし

豊勝 とよかつ

三次郎 生國同前

台徳院殿

將軍家一ノノノノノノノ

家紋鳩齋草 このしんじい

九星廿級千葉外ノノノノ

